View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

吉備国際大学研究紀要
（人文・社会科学系）
第22号，157－166，2012

大学生における自己省察とその相互交流が将来展望に及ぼす効果
―教員免許状取得希望の学生を対象とした授業実践から―

作田　澄泰*・森井　康幸**

Effect of self-reflection and mutual communication on university students' future prospects
―A case of students aspiring for teaching profession―

Kiyohiro SAKUDA*，Yasuyuki MORII**

Abstract

Purpose of this study was to examine the effects of a teaching practice that aims to let students think about their future prospects. Forty-five students aspiring for teaching profession reflected their own lives and presented their own reflections mutually by using computer presentation software in small groups. Results of questionnaire conducted after teaching suggested that it had the following effects: (a) the students realized the significance of continuity in the thinking of the past, present and future of their own lives, (b) they noticed that the value of their existence through contact with diverse values and prospects on life, (c) their self-reflections and interactions with others for it promoted the awareness of moral values such as gratitude and sympathy to the people around them, and (d) they came to intend to make efforts towards their aims even difficult.

Key words：university students, aspiration for teaching profession, self- reflection, mutual communication, career education, moral values
キーワード：大学生，教職志望意識，自己省察，相互交流，キャリア教育，道徳的価値

1．はじめに

近年，地球規模で進む環境問題はますます深刻化し，我が国においては少子高齢化の問題が進行している。これに加えて，長引く景気の低迷や追い打ちをかけるかのように生じたリーマンショックに端を発する世界的な同時不況などによる社会の不安定化，さらには政治の混乱もあって，我が国の状況も

* 広島県尾道市立三庄小学校
〒722-2322　広島県尾道市因島三庄町1633番地
Hiroshima Prefecture, Onomichi Municipal, Mitunoshou Elementary School
1633, Mitunoshou-machi, Innoshima, Onomichi-shi, Hiroshima, JAPAN (722-2322)
** 吉備国際大学心理学部心理学科
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町８
Department of psychology, School of Psychology, KIBI International University
8, Iga-machi, Takahashi-shi, Okayama, JAPAN (716-8508)

先行きの見えないものになりつつある。この様な社会状況下にあって，若者の社会における閉塞感にはかなり強いものがあると言われている。

平成22年２月５日にフィデリィ東投信が全国の大学２～４年生（除く短大生）約2,200名を対象に実施した「社会保障制度の理想像や退職後の生活等に関する意識調査」によると，「日本の将来に夢や希望をもてない」と回答した割合は約７割にもなっており，その理由として「国家財政赤字の深刻化による若年世代へのしわ寄せ」や「雇用不安」などが挙げられている。先行き不安の中で，「どうせ，学んだって，何にもならない」，「夢や希望がもてない」といった理由から，在学中には積極的に勉学に取り組むこともなく，卒業後も就職せずアルバイトをしながら生活を送っていく若者も多く見られるようになった。厚生労働省（2010）の報告によると，15歳から34歳までのニートやフリーターの人数は2010年には全国で約243万人ということであり，内閣府の集計によれば，2001年時点で実に約500万人と報告されている。

大学生の中には，「どうしていいか分からない」，「これからどう生きればいいのか」というように，ただただ混乱するのみで自分自身の生き方を見失いかけている者もいる。また他方で，「いずれ何とかなる」というように，自分の進路について何も考えることなしに卒業していく者もいる。いずれにしろ，自分自身の生き方について自律的に考え，希望に満ちた未来を設計しようとする姿勢に乏しい状況がうかがえる。自己実現に向けた，「生きる力」の育成は，大学においても積極的に取り組むべき重要な課題であるといえよう。

「生きる力」の育成は，大学においては，本来，幅広い一般教育と奥深い専門教育を通して行われるべきものであるが，近年ではキャリア教育の充実という形でより直接的に扱われるようになってきた。キャリアとは，非常に簡単に述べると「生き方」と「働き方」をセットにしたような概念であり，1999年の中央教育審議会答申において，キャリア教育を小学校段階から実施することが提言されて以来，キャリア教育は初等・中等教育において急速に導入されてきた。大学においてもキャリア発達を支援する取り組みが，インターンシップの導入などを手始めとして進められてきた。国立大学協会教育・学生委員会（2005）によれば，2005年７月に名古屋大学が行った調査では，208大学中の80％の大学が広い意味でのキャリア教育を実施していると報告している。

ただし，多くの大学ではキャリア教育の導入後間もなく，手探り状態で進めているというのが実情である。国立大学協会・学生委員会（2005）は，大学４年間にわたるキャリア教育の全学的なカリキュラムの必要性を指摘しているものの，その制度やカリキュラムの整備状況に関しては大学間でのばらつきが大きい。今後，このキャリア教育を充実させて，大学教育にしっかりと位置づけていくことが求められている。

ところで，「生きる力」の育成はキャリア教育によってのみ取り扱われるものではない。「生きる力」を構成する重要な要素の一つとして，「豊かな人間性」が挙げられている。その育成の基盤となるものが，初等・中等教育にあっては道徳教育であり，そこでは「自己の生き方についての自覚を深め，人間としてよりよく生きていく力」と定義づけられる道徳的実践力の育成が目指されている。

さらに小学校においては，よりよい生き方をめざす子どもの育成のために，道徳教育とキャリア教育のつながりを考えた実践も行われている（三村，2006）。両者をつなぐことによって深まる向上心や感謝・思いやりといった道徳的価値の自覚が，よりよい生き方をめざす子どもの育成につながると考えられているのである。例えば，田原（2011）は，道徳教育とキャリア教育等を関連させた「よりよい生き方を考えるためのプログラム」の開発を目指して

行った，小学６年生対象の授業実践を報告している。そこでは，「夢マップを作ろう」「未来予想図を作ろう」という授業目標において，世の中の仕事について調べたり，今の自分について考えたり，自分の夢について考えたり，夢を実現するのに必要な力について考えたり，という活動がなされている。

大学におけるキャリア教育・キャリア開発の授業でも，自分の人生経歴を振り返り，将来を考えるきっかけを与えるために，自己分析などが行われることも多い。しかし，自己分析及びそれに基づく自己評価のみでは，現時点での適性，価値観等への気づきが得られるくらいで，必ずしも将来にわたる適性を保証しない。

将来的な生きる力につなげるためには，内田（2010）が指摘しているように，「与えられた条件のもとで最高のパフォーマンスを発揮するように，自分自身の潜在能力を選択的に開花」させることができるような能力・態度の育成が求められよう。 自分の希望や社会からの要請に応じて，人生を切り開いていく潜在能力の開花に関わるものとしては，課題発見能力であったり，課題解決能力はもちろんのこと，自律性，自信，向上心，感謝，思いやり，社会的な期待や役割の自覚などの道徳的価値の内面化，道徳的実践力の涵養こそ重要となってくるであろう。大学においては，特別に道徳の授業が行われることはほとんどないが，「生きる力」の育成，あるいは，キャリア教育の充実を図る上で，道徳教育の視点を組み込んだ取り組みは有効なものと思われる。本研究では，そうした観点から大学生を対象に行った授業実践を報告するとともに，その効果について検討した。

２．実践課題

一口に大学生といっても，将来の目標に向かって主体的に考え，行動している学生もいれば，上述のようにほとんど何も真剣に考えることなく過ごしている学生もいる。国家資格などの取得が目標になっているような学部学科の学生の場合，自身の生き方については，それ以外の一般学生と比較すると，ある程度はっきりした展望を持っていることが予想される。

では，教員免許状取得希望者の場合はどうであろうか？とりわけ，教員養成が主たる目的となっていない学部学科の学生の場合，必ずしも教職に就くことが第一志望となっているわけではない。絶対に教員になりたいという者は少数であり，漠然とできれば教員になりたいという者，とりあえず教員免許状だけでも取得しておこうという者が大部分であろう。教員採用の厳しい現実を考えると，「今は教員を目指さないが，将来役に立つかも知れないから」という理由で教員免許状の取得を希望している者は多い。十分な将来設計もなされないまま，安易な気持ちで教員免許状の取得を目指しているように思われる。

そのような学生の場合，単に必要な単位を取得しようとするだけで，教職に向けて自主的，自律的に専門性を高めようとか，教育現場の諸問題について関心を持って学んでいこうということはほとんど見られない。教職課程における学びの効果が上がらないだけでなく，教育実習では直接的に教育現場に混乱をもたらす可能性も高くなる。従って，教職課程で学んでいる学生に対して，教職志望意識の向上・再確認を図るとともに，教職という夢の実現に向けて自信と誇りを持って自律的に取り組んでいこうとする態度を育むことがぜひとも必要と思われる。

そこで本研究では，このような課題への探索的取り組みの一つとして，道徳的価値への気づき，内面化さらには道徳実践力を促進するような関わりの効果を検討した。具体的な取り組みは，①自分を振り返り，過去から未来への展望を持たせるなかで，教職志望意識の再確認を行う。そして②自分の人生の

振り返りを他者と相互に発表し合うことにより，道徳的価値への気づきを促進させる，というものであった。

特に，各自の人生の振り返りの相互発表，およびそれにもとづく交流は，振り返り結果に対する自己評価のみでは，自己開発の実践的な力にはなりにくいのではないかという危惧から導入したものであり，次のような効果が期待された。

①自分の振り返りを他者に分かりやすく発表しようとすることで，当然自分にも分かりやすい形で簡潔に整理できる。

②多様な人生観，価値観に触れることで，自分にも寛容になれるとともに，生き方を見直すきっかけにもなる。

③他者との交流の中で自分の経歴や決断が受容されることで自信につながる。

３．実践概要（授業の流れ）

自分の過去を振り返り，今後の進路・生き方についての展望を持たせる中で，道徳的価値を深め，教職志望意識の再確認を行うことと，発表・説明のためのツールであるプレゼンテーション・ソフトの効果的な使用法について習熟することを目的として実施した。

演習内容の実際

対　　象　吉備国際大学で教員免許状の取得を希望している大学３年生の２つのクラスを対象に授業を行った。２クラスの合計人数は45名（男性23名，女性22名）であった。

実施場所　吉備国際大学情報処理室。

実施時間　教員免許状取得に必修の科目である教職総合演習の15時限（90分／時限）のうちの２時限分を180分連続の集中授業として実施した（適宜，休憩時間を入れた）。

実施時期　2011年６月中旬に，実施した。

授業（演習）の実際　授業の展開は，表１の本時案に示すとおりであり，次のように実施した。

⑴　導入：教職志望意識の確認とともに，授業に入った。

⑵　過去と現在の自分についての自己分析：自分自身の過去を振り返り，現在の自分との比較をしやすいように，小・中・高校時代の様々な経験をできるだけたくさん想起してもらい，それらをワークシートにまとめさせた。

⑶　プレゼンテーション・ソフトを用いたスライドの作成：ワークシートをもとに，小・中・高校時代ごとに自分の人生の中でポイントとなる出来事・経験，および自分の長所や短所等について簡潔にまとめ，パワーポイントを用いて相互発表用のスライドづくりを行った。その際，他者に話したくない過去の出来事等がある場合には，その部分は発表しなくても良いことを伝えた。パワーポイントのスライド作成方法に習熟していない学生も多かったため，作成方法についての解説も適宜入れながら行った。

⑷　小グループに分かれての自分の作成したスライドの相互発表とそれをもとにした交流：４～５名ずつの小グループに分かれ，パソコンのモニターで各自のスライドを提示しながら相互に発表し，その発表に対して質問や意見・感想を出し合った。その相互交流の中では，互いの意見・考え方を決して否定することなく受け止め，さらに可能な限り良いところを見つけてはそれを相互に指摘し合うように指導した。このような互いを認め合う交流により，多様な価値観を肯定的に受け止めるとともに，自己肯定感が高まり，互いの道徳的価値が深まることをねらった。

⑸　スライドの完成：相互交流での意見・感想を参考にして，各自の自己省察の深化を図るとともに，より効果的なスライドの完成に取り組んだ。

表１　指導案

指導者　作田　澄泰

	学　習　活　動	指導者の主な発問○と予想される学生の反応（・）	指導上の留意点　支援（○）評価（☆）
導入	⑴　自己の将来像について，指導者の話を聞く。 　パワーポイント活用の説明を聞く。	○どの校種を目指して教師を志していますか。どんな教師になりたいですか。 ・子どものことを理解できる教師 ・自分の夢を語ることができる教師	○指導者の体験談を話し，学生が，発言しやすい状況をつくる。
展開	⑵　今までの自分自身を振り返り，ワークシートに記入する。 ○小・中・高の過去において辛かった経験，楽しかった経験，充実した経験，成功した経験など自分の過去の思い出をできるだけ詳細にワークシートにまとめる。 ○現在の自分をワークシートに記入し，過去の自分と現在との自分を比較する。	○自分の過去を思い出して，小・中・高別に体験したことをワークシートにまとめましょう。 ・受験でもう，あきらめようと思った。 ・友人関係で最悪な状況だった。 ・あの人との出会いで，自分が変わった。 ○現在の自分をワークシートにまとめ，過去と現在の自分を比較して自己分析しましょう。 ・今まで苦しかったけど，過去が生かされている。 ・まだまだ，努力がたりない。 ・ますます，自分がどうしていいか分からなくなる。	○今現在の自分が，過去の人生経験の中でどのように生かされてきているのか助言し，自己を見つめさせる。 ○過去をできるだけ細かく想起させ，何がきっかけとなって現在に至ったのか，ありのままに記入するように助言する。 ○どうしても触れたくない過去や人間関係等などについては，無理に記入させないように留意する。
	⑶　作成したワークシートをもとに，パワーポイントを活用し，スライドを作成する。その後，自分の人生を振り返り，短所・長所を確認する。	○ワークシートをもとにして，現在までの自分をスライドにまとめ，自分の長所や短所を確かめましょう。 ・長所：負けず嫌いで几帳面なところ。 　短所：協調性のないところ。 ・長所：人には優しくする。 　短所：自分勝手。 ・長所：最後までやり通す。前向きなところ。 　短所：自分に優しく，人に厳しい。	○過去の人生の中で，ポイントとなる経験やきっかけなどを，色分けや文字の大きさ等で工夫し，できるだけ明確にスライドをつくるよう助言する。 ○自分自身と向き合い，他の人と相談することのないよう留意する。 ☆自分の短所や長所に気づくことができる。
	⑷　小グループに分かれて自分の作成したスライドを発表し合い，それをもとに交流し合う。	○グループ内で自分のつくったスライドを発表し合い，質問し合いましょう。 ・小学校の時は，どんな人だったのですか。 ・どんなときが一番大変だったですか。 ・一番嬉しかった時は，どんなときですか。 ○発表してみて，自分を振り返り，自分の生き方を見つめ直しましょう。 ・意見を出し合ってみて，意外な自分のよさに気づくことができた。教職という目標をあきらめかけていたが，周りからの励ましで，自信がもてた。	○主体的に話し合うことを確認し，決して互いに否定せず，認め合うことを告げる。 ○話したくない過去については，触れないように告げる。 ○話し合いの小グループは，おおむね４～５名とし，目的希望校種が同じ人で構成する。 ☆多様な人生観に触れ，寛容な心をつかむことができる。 ☆交流を通じて，互いに認め合うことで，自信につなげることができる。
	⑸　相互発表と交流をもとに，スライドを完成させる。	○交流をしてみて，参考になったことやためになったことを検討しながら，スライドを完成させましょう。 ・みんな，いろいろと大変な過去があったんだ。 ・意外な事実を知って，参考になった。	○他者のスライドはあくまで参考にし，自分自身の今までの人生のスライドを完成させるように助言する。
	⑹　完成したスライドを全員で見る。 　２～３名の代表者が発表するのを聞く。	○完成したスライドをグループメンバーだけでなく全員で見てみましょう。 ・みんな，成功ばかりだと思ったけど，苦労している。 ・いろんな考え方があって，参考になる。 ○代表者の発表を聞いて，自分の参考にしましょう。 ・教職に向かって，真剣に考えていてすごいと思った。	○他のグループの学生のスライドも参考にし，人には様々な考え方や価値観があり，今日につながっていることを助言する。
終末	⑺　アンケートへの記入をする。	○今日の演習を終えて，感想をアンケートの項目にしたがって記入しましょう。	○本講義を終えて，講義を始める前と後とでは，気持ちにどのような変化が生じたか，ありのままに記入することを伝える。

⑹　代表者によるクラス全体への発表：代表者は自分が作成したスライドを，プロジェクターを用いてスクリーンに提示して，クラス全体の前で発表をおこなった。グループ外の人の発表を見ることにより，人には多様な価値観や生き方があることについて改めて認識を深めるとともに，今後のよりよい生き方について考えるきっかけとなるよう方向づけた。

⑺　アンケートの記入：今回の「自分の過去と現在を振り返る」という演習に対する感想を，下記の質問項目への自由記述により求めた。

①スライドを作成していく中での気持ち

②仲間と交流した時の気持ち

③演習前後での気持ちの変化，あるいは自分の未来に向けての気持ち

４．結果と考察

本実践においては，現在までの生き方を各自振り返り，それを他者に発表する目的でプレゼンテーション・ソフトのパワーポイントを用いてスライドの作成を行ったが，このスライド作成により学生は自分の過去を段階ごとに分かりやすくまとめることができ，後の相互発表による交流を容易にさせたように思われる。

また，他者に対して分かりやすくまとめるということは，同時に，自分自身の頭の整理にもつながったと考えられる。図１は本演習において作成されたスライドの一例（最終完成作品）である。過去を小学校時代，中学生時代，高校生時代という区分のもと，それぞれの時代を１枚のスライドで簡潔にまとめていている。それぞれの時代での苦い思い出を取りあげながら，それらが現在の自分と密接に関わっていることをうかがわせる内容となっている。スライド作成の過程で，自分を客観的に見つめ直すことができるようになるとともに，意識的にも無意識的

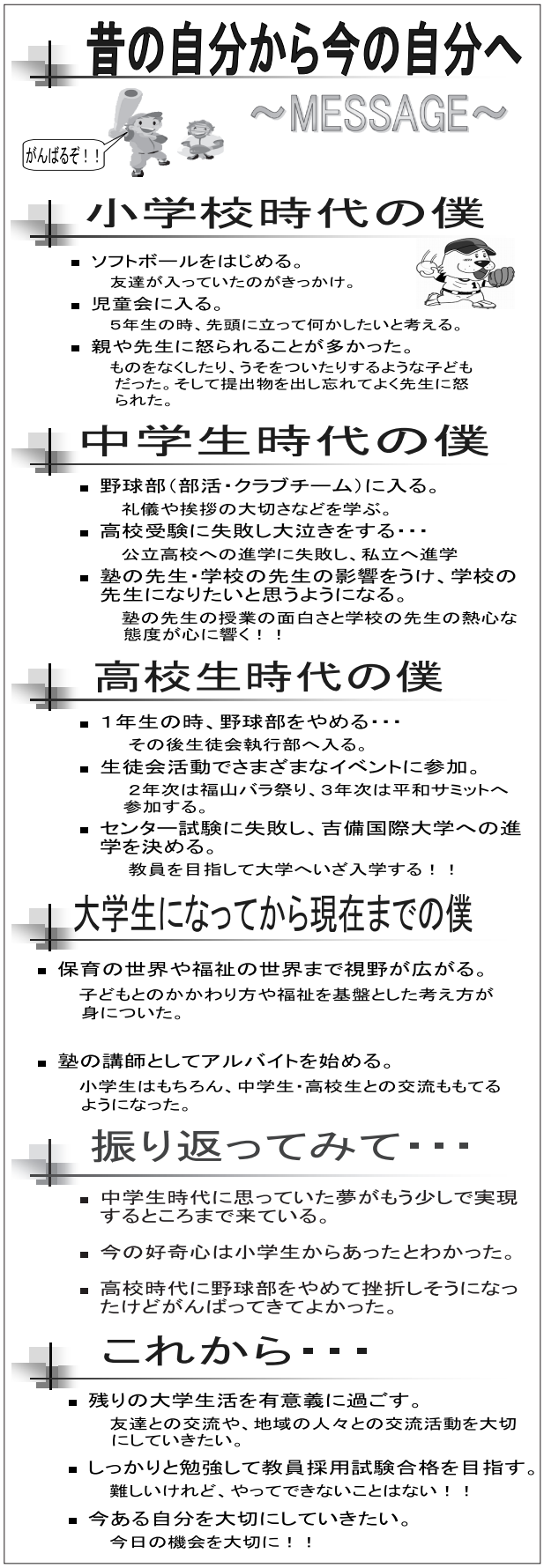

図1　学生が最終的に作成したスライドの一例

にも，様々な想い出を自分史の中に編み込むことで，連続性のある体験としてとらえ直されたと考えることができよう。今の自分は過去の自分と連続的につながっていることを意識させる効果は大きいものであったと考えられる。

次に，小グループに分かれて相互に自分の人生を発表・説明し，それに対する感想（肯定的評価）が述べられたり，質問が行われたりした。例えば，「自分に自信がもてなくなり，学校に行けなくなったときがあった」という学生に対し，「よく，立ち直ることができましたね。どうして立ち直れたのですか。」という感想・質問が出された。その質問に対し，「友達の支えや家族，先生がいたから。あのときの言葉は忘れない。」などというやりとりが行われていた。質問者やその他のメンバーは納得した表情で聞いていた。

ただし，ここでの相互交流は，少なくとも行動面からみると，必ずしも活発に行われたとは言い難いものであり，単に発表者が順番に発表しただけという感じは否めないものであった。とはいえ，様々な人生の有り様，価値観，人生観に触れることができたことは，後に触れるように貴重な体験となったと考えられる。また，他のメンバーの発表や作成したスライドを見ることで，過去・現在を振り返る際の新しい視点に気がついたり，例えば『これからの自分』といった将来に向けた展望を表明するスライドの意義を感じ取ったりしたようであった。実際，相互交流終了後のスライドを完成させる時間になって，『これからの自分』といったスライドを追加する学生が何人も見られた。

アンケート結果からみた自己省察の分析

自己を振り返りながらスライドを作成する過程で感じたことに対する感想のいくつかを抜粋して表２示した。今までの自分自身への反省（２－①，２－②）や感謝（２－①，２－④），過去との連続性の認識（２－⑤，２－⑥），人生の目標の再確認（２－③，２－⑦，２－⑧，２－⑨）といったもので大部分が占められており，教職意識の再確認を含め，これからの人生への展望も伺える回答も見られた。ただし，２－③にもあるように，このような自分の過去の振り返り，あるいは自己省察は初めてという回答も散見したことから，対象大学におけるキャリア教育，とりわけ教職課程受講者に対するキャリア教育，教職志望意識の明確化といった取り組みの不十分さも伺える結果であった。

表３に小グループに分かれて仲間と行った相互発表による交流を通して感じたことについての記述の抜粋をいくつか示した。全体的に多かった意見として，３－②，３－③，３－④や３－⑥に示すような「今まで知らなかった生き方や考え方があることが分かり新鮮だった。多様な見方・考え方を受け入れられるようになった。」というような内容のものであっ

表２　スライドを作成する過程で感じたこと

２－①	自分は今までに色々な経験をつんでいると思いました。その度に親には迷惑をかけているので反省しないといけないと思いました。また，親孝行したいと思うようになりました。
２－②	自分の過去を振り返ると，今まで自分が何も考えずに生きてきたことが分かった。
２－③	今まで人生を振り返ることがなかったので，あらためて自分の人生の目標を再確認できて良かった。
２－④	今まで人との関わりで，自分がつくられていると思うと，あらためて感謝の気持ちが湧く。
２－⑤	今の自分になったのは偶然ではなく，色々な出来事やきかっけを通してなったわけで，きちんとした理由と過程があったのだと感じた。
２－⑥	自分のことを見つめ直せたし，今の自分がどうなってできたか考えることができた。
２－⑦	自分を振り返り，色々な人と出会っていると感じた。この人たちを裏切らず，しっかりとした教師になろうと思う。
２－⑧	福祉の勉強もしているけど，やっぱり教職はすごいと思った。できることなら，教師になりたいと思った。（中学からの夢）
２－⑨	こんなこと，考える機会がなかった。初心を思い返して，また頑張ろうと前向きになれた。

表３　仲間との交流を通して感じたこと

３－①　仲間に過去の自分について興味をもってもらえたことが嬉しかった。
３－②　その人が，どうやってこれまできたのかと考えていることが分かり，とてもおもしろかった。新しい発見にもなった。
３－③　他の人の話を聞いて，自分とは違う考え方ばかりでとても新鮮に感じた。
３－④　全ての人にそれなりのドラマがあることに地球の広さを感じた。
３－⑤　うまく伝えることが難しいと思った。でも，周りの反応があって嬉しかった。
３－⑥　人の数だけの考え方，生き方があることに気づくことができ，非常に興味深いものであった。
３－⑦　人それぞれ似たような経歴だったが，たのしいことより辛いことの方が思い出に残っていて意外だった。
３－⑧　自分の学歴は少し変わっていて，あまり言いたくなかったが，他の人も様々な経験をしていて，自分がそう思っていたことがはずかしくなった。
３－⑨　道徳的価値観の共有ができて良かった。

た。頭では多様な価値観の存在とその尊重といったことを理解していたとしても，実際に自分とは異なる人生経験の中で培われてきた自分とは異なる人生観･価値観を持った人と交流することは，他者理解，他者尊重に大きな効果を持つことが示唆された。その際に，他者の考えや生き方を，決して否定することなく，できればよい点を見つけ出し，それを指摘するという傾聴態度が大きな役割を果たしていたといえるのではなかろうか。

また，３－①，３－⑤に示すように，交流の中で，自分の発表・発言に「興味を持ってもらえたり，反応してもらえて嬉しかった。」という感想も見られた。仲間から自分の生き方に対して，肯定的な反応を得たり，自分も気づかなかった自己の良い点を指摘されたりすることは，新しい自己理解にもつながるとともに，自尊感情を高めることにもつながり，ひいては生きる自信へと結びつくものと考えられよう。

さらに，３－⑧にあるように，他の仲間の多様な経験について知ることが，ネガティブな自己評価から回復させる効果があることも示されている。

このように表２と表３の考察からは，「生きる力」の育成を目指した取り組みの一部を構成する自己理解・他者理解の取り組みは，大学生においても個人内の自己分析のみによって行われるよりも，他者との交流の中で行われる方が効果的であることが示唆された。

本演習を終えての総合的な感想ということで，演

表４　演習を受けての感想・将来に向けた気持ち

４－①　今まで何を目指していたかも再確認できたので，頑張ろうという気持ちになれた。
４－②　何か少し気持ちに整理がつき，改めて自分のやりたいことが具体化されたので前向きな気持ちになった。
４－③　教師になるにあたっての心構えができ，自分をしっかりと見つめ直すことの大切さに気づいた。
４－④　改めて仲間のことや将来のことを考えたりすることができた。周りに感謝する心を忘れず，今を大切にがんばる。
４－⑤　つらい経験などをプラスに考えられるようになった。
４－⑥　あまり，過去のことは思い出したくなかった。ちょっとずつだけど前向きになれた。過去のこともプラスにしていこうと思った。
４－⑦　採用が少ないから教師になるのは難しそう。しかし，講義を終えてみて，「やっぱり，教師になりたい。なってみせる。自分をしっかりと持った人になりたい」と思うようになった。
４－⑧　改めて自分の夢を再確認でき，更に頑張って将来必ず夢を叶えようと思った。
４－⑨　もっと周りを見て，話しを聞き，自分の考え方にプラスして，もっと成長しようと思えた。
４－⑩　今のままではだめだと思い，もっと将来について考え，行動すべきだと思いました。
４－⑪　小さい頃の自分に負けないくらい頑張りたい。
４－⑫　あきらめず，教師になろうと思った。
４－⑬　今までのことは間違いなく，どれも自分の糧となっているので，頑張って生きようと思った。
４－⑭　もう少し毎日を大切にしていきたいという気持ちになれた。
４－⑮　自分に厳しく逃げずに頑張ろうと思った。行き当たりばったりではなく，目標をもち努力する。

習を受けての感想・将来に向けた気持ちについてのアンケート結果の抜粋を表４に示した。「あまり大きな変化はなかった」という学生も３名いたが，多くの学生は，表４に示されるように，「夢」（４－⑧），「目標」（４－⑮），「将来」（４－④）といった語を用いたり，「頑張ろうと思った」（４－①，４－④，４－⑧，４－⑪など），「前向きな気持ちになった」（４－②，４－⑥）といった記述をしており，自己省察により，自らの夢の実現に向けて積極的に取り組むことの意義，これからの時間を有意義に使っていくことの大切さに気づいたようであった。記述の中には，「夢・目標に向かって」というような漠然とした表現にとどまらず，「教師をめざす」といった教職志望意識の再確認，および，そのための取り組みへの決意表明の記述も見られ（４－③，４－⑦，４－⑫），困難に立ち向かう強い意志と，絶対に教師になるという信念が感じられた。また，自分を振り返る中で，単に自分一人に目が向かうのではなく，自分を支えてくれた周囲の人への感謝も記述されていた（４－④）。同様の記述は表２の２－④でも見られている。人と人とのつながり，関係性の重要性への気づきが表れたものととらえることもできる。

５．全体考察：成果と今後の課題

自分の人生を振り返り，それをスライドを用いて他者に伝わるように簡潔に整理するという作業は，複雑に絡み合った様々な出来事の末節的なことを取り除き，自分自身にとっても分かりやすい形で人生経験の意味づけを行うことを可能にしたのではなかろうか。こうした自己省察を他者との相互発表を通して交流し，多様な価値観･人生観に触れることは，自分一人では気づくことのなかった人生の意味や新しい自分の価値に気づかせることにつながったと考えられる。そして，その気づきにより自尊感情，あるいは進路に対する自信が高まり，未来に向かってより前向きに生きていこうという気持ちにつながったものと考えることができる。相互発表とその後の交流は自己理解とともに他者理解を促進させるとともに，周囲の人への感謝，思いやり，他者尊重などの道徳的価値への気づきも促進することになったように思われる。さらにこの授業実践は，他者に分かりやすく説明するというコミュニケーション技術や，他者の話を否定することなく真剣に聞くという傾聴技法などの育成にも関わるものであり，教職をめざす学生にとっては教職志望意識の再確認にとどまらない非常に有益な取り組みであったと考えられる。

今回の大学生を対象とした授業実践では，教職志望者の学生が，困難であっても自らの夢の実現に向けて前向きに取り組んでいこうとする気持ちを新たにするという一定の成果が示唆されたが，その成果に関してはさらなる検討が必要であろう。特に，教職課程の学生に限定することなく，大学における生きる力の育成，あるいはキャリア教育一般に拡張していくためには次のような課題が残される。

①対象が教員免許状取得希望の学生だけであったため，将来展望などが比較的近く，そのためにそれなりの成果が得られたのかも知れない。多様な学生のクラスの場合での検討を要する。

②今回１クラスの学生数は20名ほどであり，クラスサイズが大きくなった場合にもこの方法が有効かどうかは不明である。

③向上心や自信，感謝など，様々な道徳的価値への気づきが得られたが，果たしてどの程度，気づきが道徳的実践力につながっているのかは不明である。

④人前で発表することを前提として自分の人生の振り返りを行ったため，意識的にも無意識的にも大きく人生を脚色した可能性がある。それが好ましい影響をもたらしたのか，好ましくない影響をもたらしたのか検討する必要がある。

⑤何よりも，２時限（180分）を使った授業とはいえ，１回の演習でどれだけの長期的効果があるのか検討する必要がある。

今後，自己省察や発表のやり方，発表後の交流の進め方など，今回行った実践での手続きや成果について詳細に検討を進めるとともに，こうした課題についても検討していくことが必要であろう。

引用文献

ロイター日本語ニュース　『フィデリィティ調査』　ロイター通信ホームページ　2010年２月５日.
URL: http://jp.reuters.com/article/domesticFunds/idJPnTK036036120100205

厚生労働省　『平成23年版　労働経済の分析―世代ごとにみた働き方と雇用管理の動向―』　日経印刷　2011.
URL: http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/11/dl/01-1.pdf

内閣府　『平成15年版　国民生活白書　～デフレと生活－若年フリーターの現在（いま）～』　ぎょうせい　2001.
URL: http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h15/honbun/index.html

国立大学協会　教育・学生委員会　『大学におけるキャリア教育のあり方』社団法人国立大学協会　2005.

三村隆男　『キャリア教育と道徳教育で学校を変える！』　実業之友社　2006.

田原早苗　『生き方の自覚を深め，よりよい生き方をめざす道徳の時間のプログラム構成と実践　－道徳教育・キャリア教育の連携からのアプローチ－』　教育実践研究　第21集　2011，215-220.

内田　樹　『街場のメディア論』光文社　2010.